



2021 4

大阪自動車整備健康保険組合

保健師からのお手紙



平素より健康保険組合の保健事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

2019年4月号で『風疹と抗体検査』についてお知らせしましたが、対象となる1962（昭和37）年4月2日～1979（昭和54）年4月1日生まれの男性の方、風疹の抗体検査は、もう受けられましたか？

2022年の3月31日までなら無料で受けることができ、お住まいの自治体から届いた無料クーポンがあれば、健診機関によっては職場の定期健診時に一緒に受けることもできます。是非、この機会に検査を受けて、抗体が少ない方は予防接種（自治体によっては予防接種への助成あり）を必ず受けましょう！

今回は、知っておきたい『風疹について』再度お知らせします。

なぜ無料で検査できるの？

2011年にアジアで大規模な風疹流行が発生し、海外で感染して帰国後に風疹を発症する成人男性や、職場での集団発生があり、患者が急増しました。また妊娠初期の女性が感染すると起こる『先天性風疹症候群(CRS)*』も増えました。



風疹は予防接種（ワクチン）によって予防が可能ですが、**男性は女性より抗体の保有率が低く、特に40～50代で低い**ため、その年代での対策が必要となりました。



風疹の抗体検査（過去に風疹に感染していたかどうか分かります。風疹は一定値以上の抗体値を持っていれば、かかりにくいです。）は、健康保険は適用されず3,000～5,000円かかります。



風疹とは



風疹は感染力の強い病気で、発疹、発熱、リンパ節の腫れ等を起こします。通常、3日程度で治るため『3日はしか』とも呼ばれますが、小児と比べて**成人は長期化や重症化しやすい傾向**にあります。飛沫感染後2～3週間程度で症状が表れます。

- 《症状》
- ・赤くて小さな発疹が体中に出現
 - ・発熱と倦怠感
 - ・首や耳の後ろのリンパ節が腫れる



上記のような症状が出ない人もいますが、『脳炎』や『血小板減少性紫斑病』などを合併することもあり軽視できません。



※先天性風疹症候群(CRS)とは

風疹の免疫が無かったり、少ない女性が妊娠初期(20週以前)にかかると、お腹の赤ちゃんも風疹にかかることがあります。

感染した赤ちゃんは、心疾患、難聴、白内障、その他の心身障害を持って生まれる可能性があります。これらの障害を『先天性風疹症候群(CRS)』と言い、その障害は1つだけや複数、程度など様々です。

配偶者(パートナー)や同僚、親類などから感染し、子供や孫が『先天性風疹症候群(CRS)』となることもあります。



1962(昭和37)4月2日~1979(昭和54)4月1日生まれの



男性は無料で検査できます!

クーポンが無い方、紛失された方は自治体に問い合わせて、再発行してもらいましょう!

お住まいの自治体から送付されたクーポン(2019~2021年の各年度毎に年代別で送付)を利用して、職場での定期健診時や近くの医療機関などで受けることができます。

職場の定期健診実施の医療機関が、この事業に参加しているかどうか【厚生労働省ホームページ、風疹、追加的対策】で検索すると、都道府県別の医療機関リスト※2がありますので、チェックしましょう!



書式は自治体により様々です。

妊娠を希望しているなら

妊娠中は、風疹の予防接種を受けることができません!

妊娠を希望しているなら、妊娠前に夫婦そろって『抗体検査』を受け、免疫が無い(少ない)と分かったら、必ず『予防接種』を受けましょう!

自治体によっては、妊娠を希望している女性や、その配偶者を対象に費用の補助をしていることがありますので、一度、自治体にお問い合わせください。



『抗体検査』で免疫が無い、少ないと分かった場合は、必ず『予防接種』を受けましょう!
『予防接種』は上記リスト※2や近くの医療機関で受けることができます。



* 厚生労働省ホームページには風疹についての情報も随時更新されていますので、ご参照ください。

〈お問合せ先〉 ☎542-0066 大阪市中央区瓦屋町 2-3-1 岸和田第3ビル 3階 大阪自動車整備健康保険組合
医療費適正化対策室 保健師: 上田、阪本 TEL: 06-6762-6371 Fax: 06-6763-1800
バックナンバーは健保組合ホームページで <http://www.oj-kenpo.com>